

第22回

# 俳句甲子園

HAIKU KOU SHIEN

## 《開催要綱》

主催：NPO法人俳句甲子園実行委員会  
共催：松山市・愛媛県  
助成：公益財団法人角川文化振興財団

---

<事務局> 〒790-0814 愛媛県松山市味酒町 1-10-2 3F  
TEL 089-943-1512  
FAX 089-948-4819  
E-mail : [info@haikukoushien.com](mailto:info@haikukoushien.com)  
<俳句甲子園 HP> <http://www.haikukoushien.com>



全国高等学校俳句選手権大会

# 第22回俳句甲子園 開催要綱

事業名称 第22回俳句甲子園 全国高等学校俳句選手権大会

主催 NPO法人俳句甲子園実行委員会  
共催 松山市・愛媛県  
助成 公益財団法人角川文化振興財団

後援 文部科学省、(公社)全国高等学校文化連盟、(公社)松山青年会議所、愛媛県教育委員会  
松山市教育委員会、(公社)日本伝統俳句協会、現代俳句協会、(公社)俳人協会  
HIA国際俳句交流協会、俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会、松山大学  
愛媛新聞社、NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ  
FM愛媛、愛媛CATV、大街道中央商店街振興組合、松山大街道商店街振興組合  
(株)まちづくり松山、お城下松山 (順不同・敬称略)

協力 神奈川大学全国高校生俳句大賞

## 開催趣旨

誰でもふと口ずさむことができ、フランス人に「生きる芸術」と呼ばれた俳句。P. ピカソが「広々とした自由」と呼んだ俳句。現在全国の俳句愛好者は500万人を超え、いまや「俳句の時代」といわれるほど、この小さな詩形は、日本人の日々の暮らしに溶け込んでいます。とりわけ愛媛県では、近世から階層を問わずあらゆる分野の人々が俳諧に親しんできました。中世には神仏に捧げる法楽連歌が多く残されており、明治以降には俳句を近代の詩として再生させた正岡子規をはじめとして、高浜虚子、河東碧梧桐、中村草田男、石田波郷、芝不器男、富沢赤黄男など、さまざまな個性に彩られた俳人を輩出した伝統的風土があります。

俳句は、現代を生きる人々の心を<五・七・五>という十七音に凝縮されたわずかな言葉の空間に解き放ち、またひとつの作品が読者との間にさまざまな読み方の回路を開き、いろいろに読むことができるという自在な活力にも満ちています。各地から俳句に親しむ高校生が一堂に参集し、俳句を楽しみ、交流することは、本来「座」に集う人々の共同の文芸であった俳句に相応しく、そこから生まれる人間的な交流は、高校生にとって国語教育の一環としてのみならず、新鮮で貴重な社会的経験となり、豊かな人間性を育むであろうと考えます。

また、次代を担う若者たちの新鮮な発想と創造性、しなやかで軽やかな感受性は、この小さな詩の未知の魅力を我々の前に開いてくれることでしょう。

以上のように<俳句甲子園>は俳句を通じ地域間・世代間の交流と若者の文化活動の活性化に必ず寄与するものと考えます。(1997年当時作成)

## 開催日程・場所(予定)

### 【地方大会】

平成31年	6月8日(土)	北上市・前橋市・横浜市・大垣市・金沢市・福岡市
	6月9日(日)	東京都・長野市・名古屋市・彦根市・大阪市・防府市
	6月15日(土)	札幌市・秋田市・仙台市・和歌山市・出雲市・那覇市
	6月16日(日)	須賀川市・岡山市・松山市・宮崎市

### 【全国大会】

平成31年	8月16日(金)	松山大学カルフル(1Fカフェテリア)
	8月17日(土)	大街道商店街特設会場
	8月18日(日)	松山市総合コミュニティセンター

## 歴代優勝・準優勝校（団体の部）

第 1 回	優勝：東温高等学校（愛媛）	準優勝：愛光高等学校（愛媛）
第 2 回	優勝：愛光高等学校（愛媛）	準優勝：松山東高等学校 B（愛媛）
第 3 回	優勝：伯方高等学校（愛媛）	準優勝：東温高等学校（愛媛）
第 4 回	優勝：松山東高等学校（愛媛）	準優勝：開成高等学校（東京）
第 5 回	優勝：吹田東高等学校（大阪）	準優勝：松山東高等学校（愛媛）
第 6 回	優勝：開成高等学校（東京）	準優勝：高田高等学校 B（三重）
第 7 回	優勝：甲南高等学校（兵庫）	準優勝：開成高等学校（東京）
第 8 回	優勝：開成高等学校（東京）	準優勝：下館第一高等学校（茨城）
第 9 回	優勝：熊本信愛女学院高等学校（熊本）	準優勝：松山東高等学校（愛媛）
第 10 回	優勝：開成高等学校 A（東京）	準優勝：幸田高等学校翡翠（愛知）
第 11 回	優勝：開成高等学校 B（東京）	準優勝：愛光高等学校（愛媛）
第 12 回	優勝：松山中央高等学校（愛媛）	準優勝：洛南高等学校（京都）
第 13 回	優勝：開成高等学校 A（東京）	準優勝：首里高等学校（沖縄）
第 14 回	優勝：開成高等学校 A（東京）	準優勝：幸田高等学校（愛知）
第 15 回	優勝：松山東高等学校 A（愛媛）	準優勝：開成高等学校 A（東京）
第 16 回	優勝：開成高等学校 A（東京）	準優勝：洛南高等学校 B（京都）
第 17 回	優勝：開成高等学校（東京）	準優勝：洛南高等学校 B（京都）
第 18 回	優勝：名古屋高等学校（愛知）	準優勝：北海道旭川東高等学校（北海道）
第 19 回	優勝：開成高等学校 A（東京）	準優勝：東京家政学院高等学校（東京）
第 20 回	優勝：開成高等学校（東京）	準優勝：幸田高等学校（愛知）
第 21 回	優勝：徳山高等学校（山口）	準優勝：開成高等学校（東京）

## 歴代最優秀句（個人の部）

第 1 回	秋立ちて加藤登紀子が愛歌う	白石 ちひろ	松山中央高等学校
第 2 回	朝顔の種や地下鉄乗り換えぬ	森川 大和	愛光高等学校
第 3 回	裁判所金魚一匹しかをらず	菅波 祐太	愛光高等学校
第 4 回	カンバスの余白八月十五日	神野 紗希	松山東高等学校
第 5 回	夕立の一粒源氏物語	佐藤 文香	松山東高等学校
第 6 回	小鳥来る三億年の地層かな	山口 優夢	開成高等学校
第 7 回	かなかなや平安京が足の下	高島 春佳	紫野高等学校
第 8 回	土星より薄に届く着信音	堀部 葵	紫野高等学校
第 9 回	宛先はゑのころぐさが知つてをる	本田 秀光	宇和島東高等学校
第 10 回	山頂に流星触れたのだろうか	清家 由香里	幸田高等学校翡翠
第 11 回	それぞれに花火を待つてゐる呼吸	村越 敦	開成高等学校 A
第 12 回	琉球を抱きしめにゆく夏休み	中川 優香	菊池高等学校
第 13 回	カルデラに湖残されし晩夏かな	青木 智	開成高等学校 B
第 14 回	未来もう来ているのかも蝸牛	菅 千華子	厚木東高等学校 B
第 15 回	月眩しプールの底に触れてきて	佐藤 雄志	開成高等学校 A
第 16 回	夕焼や千年後には鳥の国	青本 柚紀	広島高等学校
第 17 回	湧き水は生きてゐる水桃洗ふ	大橋 佳歩	幸田高等学校
第 18 回	号砲や飛び出す一塊の日焼	兵頭 輝	宇和島東高等学校
第 19 回	豚が鳴く卒業の日の砂利踏めば	池内 嵩人	松山中央高等学校
第 20 回	旅いつも雲に抜かれて大花野	岩田 奎	開成高等学校
第 21 回	滴りや方舟に似てあなたの手	桃原 康平	興南高等学校

## 投句応募・地方大会概要

### 投句応募（投句審査）について

1. 投句応募の審査対象は、投句応募したチーム以外に、地方大会で敗退したチーム及び地方大会にエントリーしたものの当該会場での大会が開催されなかったチームも含まれるものとする。  
（地方大会で使われなかった句も含め、チーム5人が提出している全句が審査対象となります。）
2. 投句審査による選出は、実行委員会（複数選者）にて、学校名及び作者名を伏せた句に対し、A B C Dの四段階評価（A Bは、さらに＋評価あり）を行い、その集計結果によって、全国大会出場校を決定するものとする。（※地方大会の成績は一切加味されません。）

### 地方大会（予選会）について

1. 各会場での地方大会の開催は、大会参加申し込み締切日（5/9）において3校4チーム以上の参加が確定した場合のみとする。ただし、地方大会出場校（開催会場）の発表後（5/15）、やむを得ない事情により出場を辞退するチームが発生し、3校4チーム以上という条件に満たなくなった場合には、原則として該当する会場での地方大会は開催することとし、辞退したチームを不戦敗として扱うものとする。
2. 対戦は1試合3句勝負とする。
3. 対戦の結果、最も対戦成績（勝敗）の良いチームを全国大会進出チームとする。
4. リーグ内で上位チームの対戦成績（勝敗）が同一となった場合は、以下のとおりとする。
  - A. 2チームの対戦成績（勝敗）が同じ場合は、当該チーム同士の対戦に勝利しているチームを選出する。
  - B. 3チームの対戦成績（勝敗）が同じ場合は、リーグ内の全試合結果を対象として、次の手順に従い選出するチームを決定する。
    - ① 3チームのうち、総勝数（各句対戦の勝ち数の合計）が最も多いチーム。  
但し、上位2チームの総勝数が同じ場合は、当該チーム同士の対戦に勝利しているチーム。
    - ② 総勝数が3チーム同数の場合は、総旗数（審査員が挙げた旗の数）が最も多いチーム。  
但し、上位2チームの総旗数が同じ場合は、当該チーム同士の対戦に勝利しているチーム。
    - ③ 総旗数が3チーム同数の場合は、総得点（作品点＋鑑賞点－減点）が最も多いチーム。  
但し、上位2チームの総得点が同じ場合は、当該チーム同士の対戦に勝利しているチーム。
    - ④ 総得点が3チーム同数の場合は、作品点の合計が最も多いチーム。

### 対戦形式について

#### 3チームの場合

（総当たりリーグ戦 計3試合）

	aチーム	bチーム	cチーム
aチーム		①赤	②白
bチーム	①白		③赤
cチーム	②赤	③白	

#### 4チームの場合

（総当たりリーグ戦 計6試合）

	aチーム	bチーム	cチーム	dチーム
aチーム		①赤	③赤	⑥白
bチーム	①白		⑤赤	④赤
cチーム	③白	⑤白		②赤
dチーム	⑥赤	④白	②白	

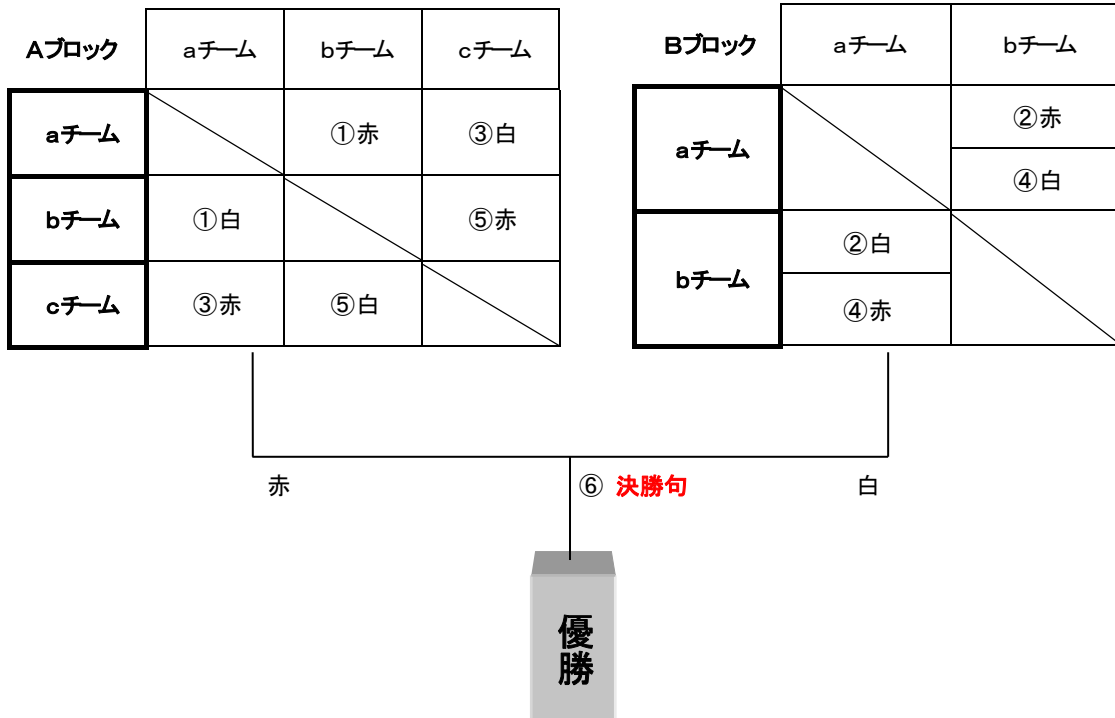
5チームの場合

※決勝句を使用

(Aブロック3試合・Bブロック2試合)

決勝戦A代表×B代表

計6試合



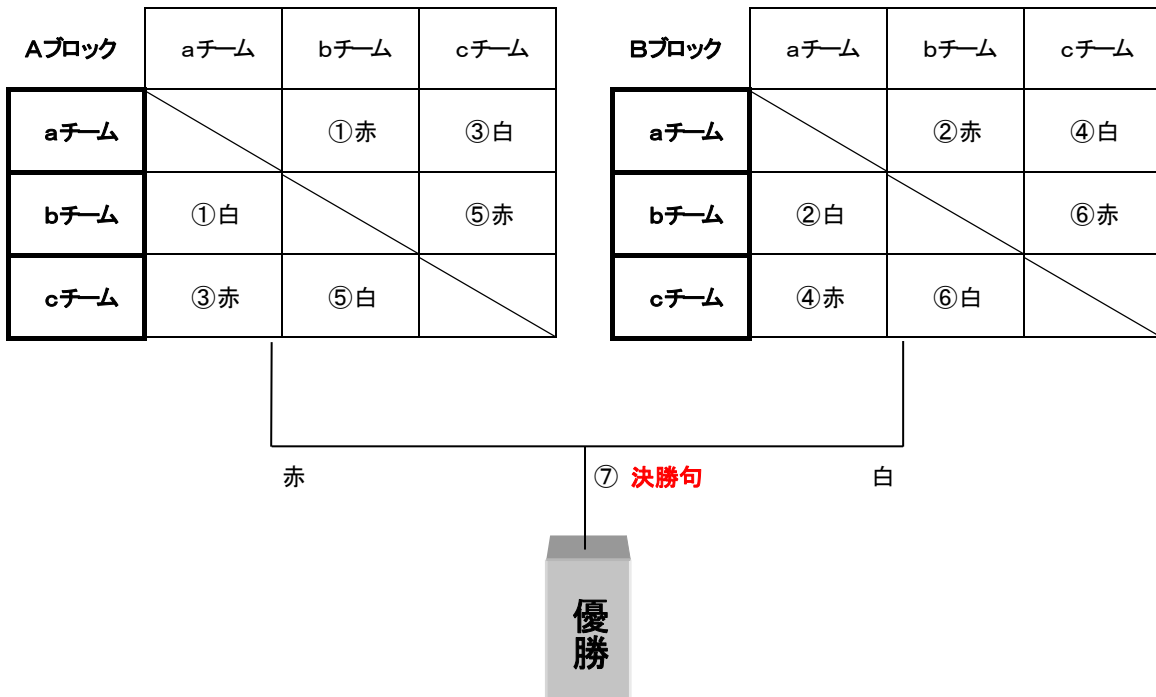
6チームの場合

※決勝句を使用

(Aブロック3試合・Bブロック3試合)

決勝戦A代表×B代表

計7試合



## 全国大会概要

大会第1日目：8月16日（金）

事業名称：組合せ抽選会・ウェルカムパーティー・敗者復活戦用俳句創作

会場：松山大学カルフル 1F カフェテリア  
概要：予選リーグ組合せ抽選会、大会オリエンテーション並びに参加者の相互交流  
敗者復活戦用の俳句創作

### スケジュール

16:40～17:10	選手受付
17:10～17:16	オープニング・ウェルカム宣言
17:16～17:24	来賓代表挨拶・来賓紹介
17:24～17:27	審査委員長紹介
17:27～17:31	審査委員長代表者挨拶・乾杯
17:31～19:00	歓談・予選リーグ組合せ抽選会・参加チーム紹介
19:00	閉会
19:00～19:20	転換（参加者全員で会場の片付け）
19:20～20:00 (19:20～20:00)	<u>敗者復活戦兼題発表・創作（1句／チーム）</u> (引率者ミーティング)
20:00～	終了解散・宿泊ホテルへ移動

大会第2日目：8月17日（土）

事業名称：開会式・予選リーグ・予選トーナメント

会場：大街道商店街特設会場  
概要：試合形式・前日の抽選結果により8会場（A～H会場）に分かれ、各会場4チーム  
総当たりリーグ戦を行う。  
8チーム選出後はトーナメント方式により、翌日開催の決勝リーグ進出  
4チームを決定する。

### スケジュール

8:20～8:50	選手受付
8:50～9:50	開会式
9:50～10:10	各ブロック会場へ移動
10:10～12:10	<u>予選リーグ第1試合～第3試合（8会場同時進行）</u>
12:10～13:20	昼食休憩
13:30～15:30	<u>予選リーグ第4試合～第6試合（8会場同時進行）</u> ※予選リーグ敗退チームは自由解散
15:30～15:40	予選トーナメント会場へ8チーム移動
15:50～16:50	<u>予選トーナメント（4会場同時進行）</u>
16:50	終了解散（自由行動）

## 予選リーグ

- 予選リーグは、大会第1日目の大街道商店街特設会場8ブロック（A～H会場）において、4チーム総当たりリーグ戦を行う。
- 予選リーグの対戦は1試合3句勝負とする。
- リーグ内で最も対戦成績（勝敗）の良いチームを予選トーナメント進出チームとする。
- リーグ内で上位チームの対戦成績（勝敗）が同一となった場合は、以下のとおりとする。
  - 2チームの対戦成績（勝敗）が同じ場合は、当該チーム同士の対戦に勝利しているチームを選出する。
  - 3チームの対戦成績（勝敗）が同じ場合は、リーグ内の全試合結果を対象として、次の手順に従い選出するチームを決定する。
    - 3チームのうち、総勝数（各句対戦の勝ち数の合計）が最も多いチーム。  
但し、上位2チームの総勝数が同じ場合は、当該チーム同士の対戦に勝利しているチーム。
    - 総勝数が3チーム同数の場合は、総旗数（審査員が挙げた旗の数）が最も多いチーム。  
但し、上位2チームの総旗数が同じ場合は、当該チーム同士の対戦に勝利しているチーム。
    - 総旗数が3チーム同数の場合は、総得点（作品点+鑑賞点-減点）が最も多いチーム。  
但し、上位2チームの総得点が同じ場合は、当該チーム同士の対戦に勝利しているチーム。
    - 総得点が3チーム同数の場合は、作品点の合計が最も多いチーム。

各ブロック内リーグ表（4チーム）

	aチーム	bチーム	cチーム	dチーム
aチーム		① 赤	③ 赤	⑥ 白
bチーム	① 白		⑤ 赤	④ 赤
cチーム	③ 白	⑤ 白		② 赤
dチーム	⑥ 赤	④ 白	② 白	

## 予選トーナメント

- 予選トーナメントは、予選リーグを勝ち上がった8チームにより4ブロック（B・D・F・H会場）にて行う。
- 予選トーナメントの対戦は5句勝負とする。また、先に3勝したチームを勝者とし、その時点で試合終了とする。
- 予選トーナメントの勝者4チームを大会第2日目の決勝リーグ進出チームとする。

## 敗者復活戦に進出するチームについて

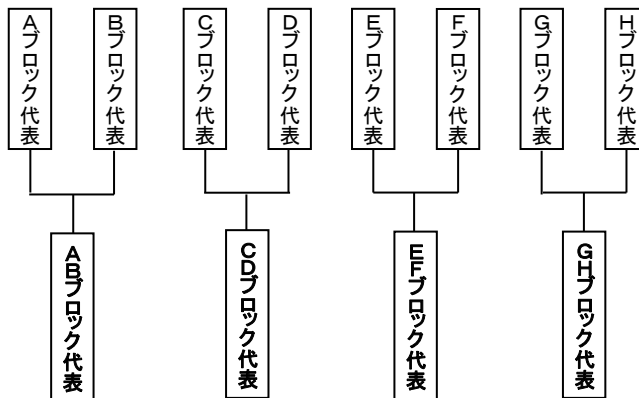
- 敗者復活戦への参加資格は、大会初日のウェルカムパーティー終了後に発表される兼題にしたがって、定められた時間内に1チーム1句創作し、実行委員会の指示する手順どおりに句の提出を終えたチームとする。
- 翌日の敗者復活戦に進出（復活）するチームは、計9チームとする。
  - 予選トーナメントまで進出したチームのうち、敗退した4チーム
  - 予選トーナメントへ進出したチーム以外から5チーム（5/24チーム）
- 上記2. ②の5チームの選出については次の手順に従って決定するものとする。
  - 審査委員長が審査し、作品点の合計数により上位5チームを選出する。  
（作品の評価については、俳句甲子園審査基準によるものとする。）
  - 獲得ポイントの合計数が同数の場合は、審査委員長の協議により決定する。

8月17日(土)  
大街道特設会場

予選リーグ

	aチーム	bチーム	cチーム	dチーム
aチーム		①赤	③赤	⑥白
bチーム	①白		⑤赤	④赤
cチーム	③白	⑤白		②赤
dチーム	⑥赤	④白	②白	

予選トーナメント



4 チーム  
決勝リーグ進出

8月18日(日)  
松山市総合コミュニティセンター

決勝リーグ (組合せ：再抽選)

Aブロック (カメラホール→大会議室)

	aチーム (復活1位)	bチーム	cチーム
aチーム (復活1位)		①赤	②白
bチーム	①白		③赤
cチーム	②赤	③白	

Bブロック (大会議室→カメラホール)

	aチーム (復活2位)	bチーム	cチーム
aチーム (復活2位)		①赤	②白
bチーム	①白		③赤
cチーム	②赤	③白	

決勝戦

赤

白

《復活チーム》

※ 敗者復活戦へ進出した9チームの中から  
選出された2チームが決勝リーグへ復活



【敗者復活戦1位通過チーム】 Aブロックのa  
【敗者復活戦2位通過チーム】 Bブロックのa



## 大会第3日目：8月18日（日）

**事業名称**： 敗者復活戦・決勝リーグ・決勝・表彰式

**会場**： 松山市総合コミュニティセンター（キャメリアホール・3F大会議室）  
**概要**： 試合形式・・・2会場に分かれ、それぞれ3チーム総当たりリーグ戦を行う。  
2チーム選出後、決勝戦を行い優勝チームを決定する。

### スケジュール

7：40～ 8：10	選手受付
8：15～ 8：28	オープニング・開会・準決勝組合せ抽選
8：28～ 8：32	敗者復活9チーム発表
8：32～ 8：40	審査員長紹介・敗者復活戦ルール説明
8：40～ 9：10	<u>敗者復活戦（9チーム）</u>
9：10～ 9：30	休憩（敗者復活審査）
9：30～ 9：40	敗者復活チーム発表（2チーム）
10：00～11：00	<u>決勝リーグ第1試合</u>
11：00～12：00	<u>決勝リーグ第2試合</u>
12：00～12：40	昼食休憩
12：50～13：50	<u>決勝リーグ第3試合</u>
13：50～14：10	決勝会場へ移動
14：10～15：20	<u>決勝戦</u>
15：20～15：40	休憩
15：40～17：00	<u>表彰式</u>
17：15～17：50	<u>エキシビジョンマッチ</u>

### 敗者復活戦

敗者復活戦は、提出された句に対して、定められた時間内に（返答時間は1分以内、審査員からの質問時間はタイムにカウントされません。）チームの代表者（1名）と審査員長（1名）が質疑応答を行い、13名の審査員長の評価（作品点及び鑑賞点の合計点）を競うものとし、得点の高かった上位2チームを決勝リーグへ復活するチームとする。

尚、発表の順番は、初日に行われた敗者復活戦の句作において作品提出の遅い順とする。

### 決勝リーグ

決勝リーグはすべて5句勝負とし、3チーム総当たりリーグ戦を行う。リーグ内で対戦成績が同一となった場合は、「予選リーグ」の選出方法に準ずるものとする。

**事業名称**： フェアウェルパーティー

**会場**： 松山市総合コミュニティセンター  
**概要**： OBOGボランティアスタッフの企画運営による親睦会  
**スケジュール** 18：30～20：30

**事業名称**： 引率者・審査員による勉強会・反省会

**会場**： すし丸 松山市二番町2丁目3-2 TEL (089) 941-0447  
**概要**： 引率者と審査員を中心とした勉強会・反省会、参加者（引率者）の相互交流  
※参加費は別途実費 3,000円程度（飲食を伴います。）  
**スケジュール** 21：00頃～

# 試合の進め方

## 試合の流れ

### ■試合開始前のあいさつ

試合開始前に司会者の誘導で、両チームの選手全員(5名)が、お互い握手をしてあいさつを交わします。

### ■試合開始

試合前のあいさつが終わると、オーダー表の順番に従って、自分たちの席に着座します。席は、ステージに向かって左側が赤チーム、右側が白チームとなります。

試合会場には、試合を円滑に進める司会者と、ルールに則った試合運営を促す行司が配されています。

試合は、司会者の合図で開始されます。その後、行司の誘導で、赤チームが先鋒の句を披購(2回読み上げ)し、続いて、同様に白チームが先鋒の句を披購します。(各対戦ごとに披購の順番は赤白交替)

### ■質疑応答(3分間×2)

行司の「それでは赤チームの句に対して白チームの方、質疑をお願いします」という合図から、白チームより質疑を開始します。赤チームはその質疑に対して返答します。質疑、応答ともに挙手にて行い、行司の許可を得た選手が最長30秒まで発言することができますが、30秒になると行司から発言が遮られ、それ以降も発言を続けると警告される場合があります。

質疑応答の時間は3分間とし、時間の許される限り、クロストークによるかけ合いが可能です。行司より時間の終了(3分)を告げられると、攻守を交替して、白チームの句に対しての質疑に移ります。(各対戦ごとに質疑応答の順番は赤白交替)

※全国大会の決勝戦に限り、質疑応答の時間は4分間とします。

### ■対戦進行表

( ) 内は全国大会決勝戦の所要時間を示します。

時間	内容	備考
	披購(俳句の披露)	赤白順次行います。
3分(4分)	質疑応答 (赤チームの句に対して)	所定時間内で、赤の句に対し白から質疑を行い、赤はその質疑に対する返答を行います。
3分(4分)	質疑応答 (白チームの句に対して)	所定時間内で、白の句に対し赤から質疑を行い、白はその質疑に対する返答を行います。
	審査員による判定 審査員の解説	判定後は、審査員のポイントを公表し、審査員に対戦の講評・解説をいただきます。

披露の順番は対戦句ごとに交代します。よって質疑応答の順番も同様に交代します。

### ■試合終了後のあいさつ

試合終了後にも開始前同様に、司会者の誘導で両チームの選手全員が握手を交わし、互いの健闘をたたえあいます

## 試合の勝敗

### ■各対戦(句ごと)の勝敗

質疑応答終了後、審査員は披購された句の創作力と、質疑応答による鑑賞力の評価を、それぞれ作品点、鑑賞点として付与し、その合計点の高いチームへ1票を投じます。

(合計点と同点となった場合は、作品点の高いチームへ1票を投じます。)

審査員の票の投じ方は、赤白の旗挙によって行い、より多くの旗が挙げたチームの勝利となります。

勝敗を決した後は、審査員から句に対する評価ならびに鑑賞力に対する講評があります。

#### ★作品点

10点満点で、作品句の創作力を絶対的に評価します。

#### ★鑑賞点

対戦中の質疑応答を審査し、総合鑑賞力の高いと思われるチームにのみ、相対的評価を2点以内の点数で付与します。

※評価については、俳句甲子園審査基準によるものとします。

## 注意事項

### ■質疑応答のできる選手

質疑応答は、チーム5名の誰でも行うことができます。対戦している句を作った選手同士だけが発言を許されているわけではありません。ただし、挙手によって行司に指名されてからの発言となります。

### ■質疑応答時の選手間の相談

対戦相手チームの発言中に、小声で相談することは、警告や減点には当たりません。

### ■警告となる行為

競技上、相応しくない発言や行為については、行司より警告される場合があります。警告された選手、チームはすぐさま減点となるわけではありませんが、警告された内容を改めない場合は、行司の判断により減点の対象となります。

- (1) 試合中の遅延行為、その他試合の進行を妨げる行為
- (2) 試合中の外部者からのアドバイス(通信機器の使用等)
- (3) 行司からの注意にもかかわらず、大声や無意味な言動を繰り返す行為
- (4) 個人に対する誹謗中傷的な言動

### ■減点の方法

減点は、行司の指示により各審査員の合計点から1点マイナスされます。その結果、同点となった場合は、減点のあったチームもしくは減点の多いチームを負けとします。

## ■大会の原則

俳句甲子園は、「俳句」という文学的フィールドの中で、句に対する見識・感受性・創造力などを互いに競い合う場であり、決して作品・個人に対する中傷誹謗の場ではありません。